

政府目標「理系 5 割」実現への道筋、幼少期の STEAM 教育にあり お子さまの進学・活動に関する独自調査を実施！ 中学生以上の半数超、高校生以上では 70%超が理系を選択

教育事業を展開するヒューマンアカデミー株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役：田中 知信、以下「当社」）の児童教育事業「ヒューマンアカデミージュニア」が運営する「ロボット教室 ロボティクスプロフェッサーコース」および「こどもプログラミング教室」の在籍生および修了生の保護者を対象に、「お子さまの進学・活動に関する調査」を実施しました。政府が理系進学率を現在の約 35%から 50%へと引き上げる目標を掲げ、約 3,000 億円規模の基金による支援を行う中、当教室での学習経験が「理系進路」の選択という形で具体的キャリア形成に繋がり、中学生以上の在籍生および修了生 55.4%が理系を選択していることが明らかになりました。さらに進路選択が具体化する高校生以上においては 73.6%まで達しました。

【本件のポイント】

当社「ロボット教室」在籍生・修了生の保護者調査結果※1

- 進路選択が具体化する高校生以上に絞ると理系進路の選択割合は 73.6%に達し、全国平均（約 35%※2）を上回る
- 理系進路を選択・志望する層の約 60%が「教室での学習が受験・進路決定に影響した」と回答。相関関係を確認
- 国際物理オリンピック日本代表候補や、NHK 高専ロボコン全国大会優勝から東京大学への編入など、社会で活躍する次世代人材の具体的な成功事例が多数

※1 本データは「ロボット教室」「ロボティクスプロフェッサーコース」「こどもプログラミング教室」「科学教室サイエンスゲーツ」に限る当社独自調査です

※2（出典）2022年5月「教育未来創造会議『第一次提言』のポイント」より

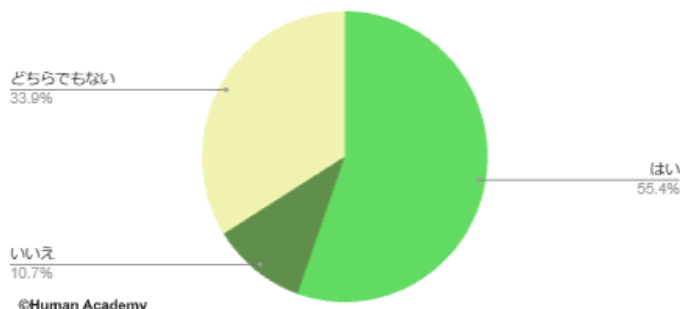
【調査結果詳細】

1. 進路選択が近づくにつれ明確になる理系への志望（高校生以上で 73.6%）

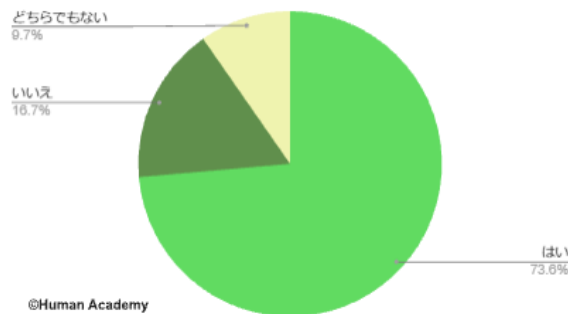
「理系科目を選択している、または将来的に理系の進路に進みたいと考えていますか」という問いに対し、進路選択がより具体化する高校生・高専生・大学生・社会人（計 72 名）に絞って集計した結果、理系を選択した割合は 73.6%（53 名）に達しました。日本の教育現場では、高校生段階での文理選択において一度文系を選択すると数学・理科の履修が減り、理系学部への道が閉ざされる「パイプラインの寸断」が課題とされています。しかし、当教室の受講生は早期に技術への関心を確立しているため、この分岐点で迷うことなく理系を選択する強い傾向（キャリアアノカーの形成）が確認されました。

【図 1：理系進路の選択状況】

中学生以上（n=177）



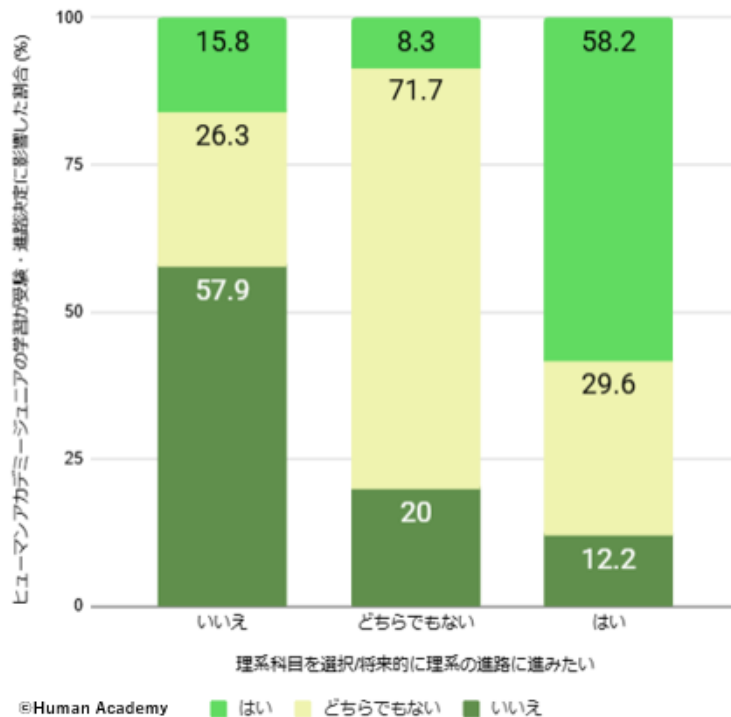
高校生以上（n=72）



2. 教室での学習経験と理系進路決定への強い相関関係

「ヒューマンアカデミージュニアの学習が受験や進路決定に影響しましたか」という問いと、理系進路への意向をクロス集計した結果、理系進路に「はい」と回答した層の約 60%が、学習が受験・進路決定に「影響した」と回答しており、非常に強い相関関係を示しました。両質問に「どちらでもない」と回答した人は 71.7%を占めており、まだ進路が明確でないため、学習が直接的な進路決定に結びついたという実感は薄いものの、将来的な可能性としては排除していない状態にあると推測されます。

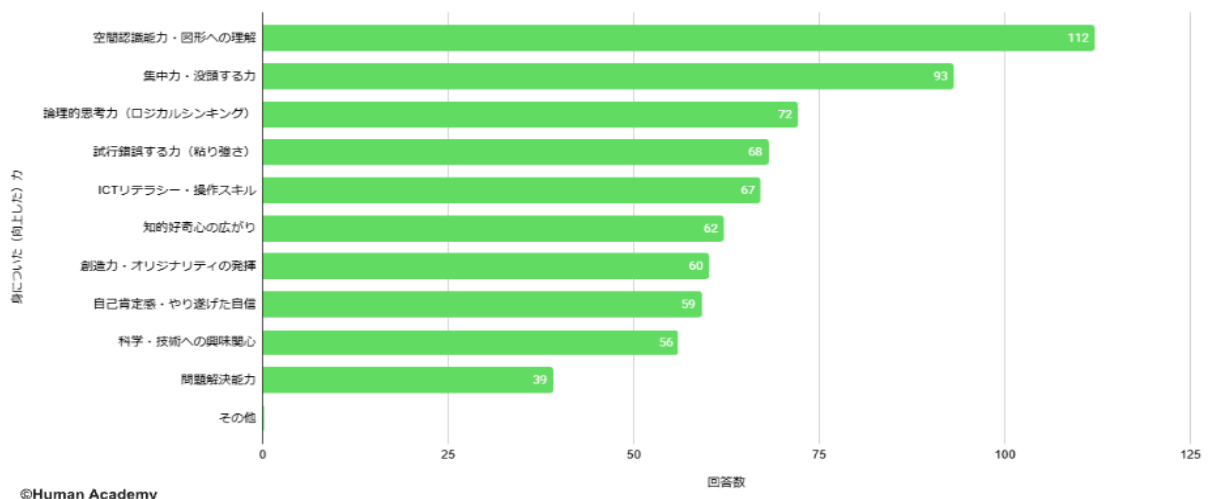
【図 2 : 理系進路の意向別 : ヒューマンアカデミージュニアの学習が受験や進路決定に影響した割合】
全体 (n=177)



3. 習得スキルの分析 : 社会が求める「高度 IT 人材」の資質と合致

小学生以上を対象に、「教室での学習を通して、どのような力が身についたと感じられますか（複数回答）」という質問を行いました。特に回答数が多かったトップ 3 は「空間認識能力・図形への理解」「集中力・没頭する力」「論理的思考力（ロジカルシンキング）」です。これらは、政府が 2030 年に向けて育成を急ぐ「先端 IT 人材」や「高度情報専門人材」に不可欠な資質と合致しています。

【図 3 : 教室での学習を通して身についたと感じる力（回答数順）】
全体 (n=688) 複数回答あり



■ 受講生・保護者の声

総括：STEAM 教育が理系脳を育み、将来の IT 人材不足を救う鍵となる可能性を見出しました。

「NHK 高専ロボコン全国大会優勝。東京大学に編入することができました。これからもロボットの研究を続けていきたいと思います。」（大阪公立大学工業高等専門学校 5 年生／ロボプロ修了生）

小学生の頃から自分が作りたいロボットを作ることが出来て、それがいつのまにか自身のライフワークとなり、大学でロボット工学を専攻することに全く迷いが無かった。（大阪大学 工学部 応用理工学科 1 年生／ロボプロ修了生）

「集中力や思考力が身につく、受験勉強を有利に進めることができた」（慶應義塾大学 医学部医学科／ロボット修了生）

■ 調査概要

調査期間：2025 年 12 月 26 日～2026 年 4 月 13 日

調査対象：ヒューマンアカデミージュニア教室の在籍生・修了生・休会者の保護者（本人回答含む）

有効回答数：792 名（※48 件の重複回答除く）

<属性内訳> 未就学児：83 名（10.5%）、小学生：516 名（65.3%）、中学生：121 名（15.3%）、高校生：47 名（5.9%）、高専生：9 名（1.1%）、大学生：13 名（1.6%）、社会人：3 名（0.4%）

調査方法：WEB アンケート

※調査結果の構成比は小数点 2 位以下を四捨五入して算出しているため、合計値は必ずしも 100%とはなりません。

■ 今後の展望

国が「理系大学生 5 割」の方針を打ち出し、経済産業省の試算では 2030 年に最大約 79 万人の IT 人材不足が予測される中、早期からの理数系教育の重要性はますます高まっています。ヒューマンアカデミーは、子どもたちの「知的好奇心」を「未来を創る力」へと変える STEAM 教育を通じ、我が国の課題である理系人材・DX 人材の輩出に引き続き貢献してまいります。

■ 「ヒューマンアカデミージュニア ロボット教室」とは

「ヒューマンアカデミージュニア ロボット教室」は、ロボットクリエイターの高橋智隆氏をアドバイザーに迎え、2009 年 6 月にスタート。未就学児（5～6 歳）から中学生を対象に全国で展開し、教室数は 2,000 教室以上、在籍生徒数は 27,000 名を超えるロボットプログラミング教室です（※2025 年 3 月末時点）。5 歳から中学生までお子さまの年齢に合わせたさまざまなコースをご用意しており、「プレプライマリーコース」「プライマリーコース」「ベーシックコース」では、動くロボットを自ら作り上げ、試行錯誤を繰り返しながら構造や動きの仕組みを学びます。「ミドルコース」「アドバンスコース」では、さらにマイコンブロックやセンサーが追加され、専用タブレットを用いたビジュアルプログラミングでより複雑な動きを実現します。

子どもたちに科学の驚きと感動を与え、楽しく夢中になってロボット製作に取り組むうちに、新しい時代を生き抜く上で必要となる学びの基盤となる力が養われているというプログラムです。

●ウェブサイト URL：<https://kids.athuman.com/robo/>



■ ヒューマンアカデミーについて <https://manabu.athuman.com/>

ヒューマンアカデミーは、学びの面白さを提供する「Edutainment Company」として、1985 年の創設以来、時代や社会の変化にあわせながら 800 以上の講座を編成しました。未就学児童から中高生・大学生・社会人・シニア層とあらゆるライフステージにおける STEAM 教育やリスティング、学び直しの支援を行っています。

さらに、独自の「ヒューマンアカデミー-GIGA スクール構想」を推進し、学習支援プラットフォーム「assist」を開発。SELing サポートカウンセラーと講師が、個別に学習目的や目標にあわせた進捗管理や相談などの学習サポートをします。私たちは、常に最先端の教育手法やテクノロジーを取り入れ、学びの喜びを追求し、最高水準の教育サービスを提供していきます。



■ヒューマングループについて

1985年の創業以来「為世為人（いせいいじん）」を理念に掲げ、教育を中核に人材、介護、保育、IT、美容、スポーツと多岐にわたる事業を展開しています。

深刻な社会課題である「労働人口減」に対し、各事業の専門性を活かした4領域で解決を推進しています。教育・人材事業による「海外人材の活用」、介護（通所・訪問・ホスピス等）や保育・学童運営による「国内労働力の確保」、RPA・AI・ITコンサルを通じた「生産性の向上」、そしてMBAを含む社会人教育による「専門教育・リスキリング」に注力。SDGsへの貢献を通じて、誰もが自分らしく生き、学び、働ける社会の実現と、時代に即した労働環境の革新に取り組んでいます。



●ヒューマンホールディングス ウェブサイト：<https://www.athuman.com/>

会社概要

ヒューマンアカデミー株式会社

- 代表者：代表取締役 田中 知信 ●所在地：東京都新宿区西新宿 7-5-25 西新宿プライムスクエア 1階
- 資本金：1,000万円 ●URL：<https://manabu.athuman.com/>

■本件に関するお問い合わせ ■ ヒューマンアカデミー株式会社 担当 原・高橋
E-mail：ha_info@athuman.com

■ヒューマングループに関するお問い合わせ ■ ヒューマングループ 広報担当 若林・原野
E-mail：kouhou@athuman.com